

士別市ボランティアセンターだより ふれあい

● 発行 ●

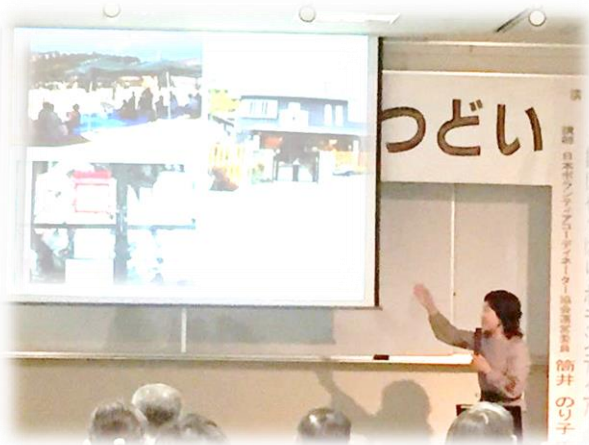
士別市ボランティアセンター
士別市東5条3丁目
サポートセンターしべつ
士別市社会福祉協議会内
TEL 22-3012
FAX 22-3019

「第39回住民福祉活動を進めるつどい」開催

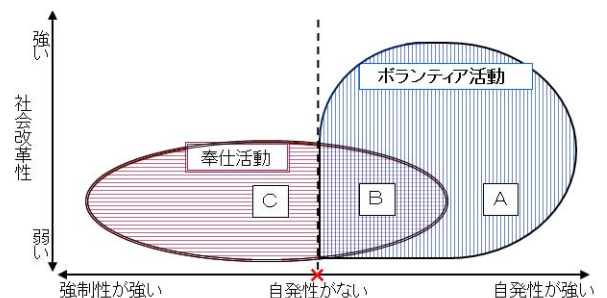
10月21日、今年で39回目となる「住民福祉活動を進めるつどい」を開催。講演のテーマは「地域や団体が元気になるには？～鍵はやっぱりボランティア」と題し、大阪より龍谷大学社会学部教授、筒井のり子氏をお招きしました。

筒井氏は日本ボランティアコーディネーター協会の運営委員でもあり、ボランティアコーディネーターとは何かから始まり、専門職とボランティアをつなぎ…そして縦割り行政の中をつなぐ…これからの福祉は個々に頑張るのではなく、ひとつひとつをつないで大きな力として協力し合うことが大切、それらをつなぐ役割がボランティアコーディネーターであると説明されました。

現在の日本の社会状況は昔とは違い、行政では対応しきれない問題を多数抱えています。少子高齢化はもとより、単身化・生活格差、いつ襲ってくるかわからない災害被害などをどのように支えていくか？そこで今、住んでいる地域で安心して暮らしていくために、行政・事業者・ボランティア・住民などが連携し、制度に頼るばかりでなく、地域で人と人が共に支えあう「地域福祉」が重要。



そして、「ボランティア」は、誰かに強制されて行うものではなく、自ら進んで実行するもの。だからこそ、自分もそして相手も「より楽しい」と感じられるものであるとお話されていました。



自発的でない活動はボランティア活動とは呼ばない

「ボランティア研修交流会」開催

名寄・剣淵・和寒・土別の4市町のボランティア運営に関わる方々を対象とした研修交流会を10月14日（土）土別市生涯学習情報センター「いぶき」で開催。

研修会では、毎年お越しいただいている愛知県社協ボランティアセンター運営委員長の鈴木盈宏氏を講師に、「ボランティアにおける様々なコラボレーション」と題した講演がありました。

現在の社会の課題は、少子高齢化・地球温暖化・災害・雇用など様々で、よいまちにするにはこれらを含めた地域社会の問題を解決していく必要がある。そのためには、「産官学民※」のコラボレーションが重要であると説明されました。

※産=企業、官=行政、学=学生、民=地域住民

今抱えている悩みや、諦めている事案を解決・実現する糸口が見えなかったものがコラボレーションすることで解決できるかもしれない。様々な事例や体験談を参加者はうなずきながら聴講しました。

意見交換会では、今後の研修交流会のあり方について各市町参加者を3つに分かれる形で話し合い。土別で開催された「愛ランド」以降、毎回土別で行っているが、持ち回りにしてはどうか？ また、この4市町のつながりをどう盛り上げていくか？ などいつも以上に活発な意見交換ができました。



コラボレーションを視野に活動

	行政	企業	NPO	学生
強み	・信頼 ・強制力 ・確実性	・人 ・物 ・金	・ノウハウ ・専門性 ・ネットワーク	・バイタリティー ・チームワーク ・フットワーク
弱み	・公正 公平 ・柔軟性が無い ・グリーンが無い	・過度の企業広報 ・景気に左右 ・効率主義	・資金面 ・PR不足 ・サバイバル	・資金面 ・継続性 ・ネットワーク

*企業×企業のコラボも



お楽しみの懇親会



牧野さんの「オカリナ演奏」

テーブル対抗でお題を絵に書き、当てるゲーム「お絵かきですよ」は、タブレットを使う方式で行いました。手描きより難しいのか、絵が苦手なのか大盛り上がり！ 各市町の特産品を争ってのちょっと変わった「クイズビンゴ」でも運を使い切りました。 来年は和寒の「地獄鍋」に期待！

←正解：
シュウマイ



「お絵かきですよ」は、描く人も当てる人も真剣！



ビンゴしていない人が立ってます